

6月14日

主教教会博士バジル

Βασίλειος καισαρείας

(330頃～379)

～カパドキアの三教父～

<人名事典などでの別表記：バシレイオス>

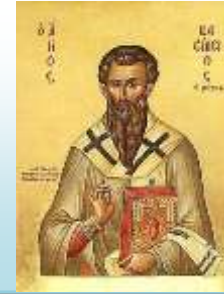
バジルはカパドキアの三教父の一人です。父は有名な修辞家であり、弟はニュッサのグレゴリオスです。なおカトリック教会では、バジルの父と母を聖者、祖父を聖殉教者、祖母と姉を聖女、二人の兄弟を聖人に定めています。

さて、バジルは様々な土地で学んでいきますが、アテーナイで同郷の友人ナジアンゾスのグレゴリーと再会します。

そして帰郷後、彼はしばらく修辞学の教師をします。ですが、この世の様々なことに溺れて人生の目的を忘れないかと、心配した妹マクリーナに勧められ、修道生活を始めます。

彼は 370 年、カイサリアのエウセビオスのあとにカイサリアの司教となります。そしてその頃起こっていた教理論争に巻き込まれていきます。キリストは真の神ではないとするアリオス主義、キリストは真の人間ではないとするアポリナリス、聖霊の神格を否定したエウスタチウスという異端に対して、彼は著作をもって、またナジアンゾスのグレゴリーらと共に行動しながら、三位一体論を展開していきます。

彼は人望が厚く、それを見込んだ当時の皇帝はバジルをアリオス



「カイサリアの

バシレイオス(聖大ワシリイ)

のイコン」

派に引き入れようと、総督に指示します。バジルは断りますが。怒った総督は彼に対して、財産の没収をしたり、鞭打ちなどの脅迫を重ねていきます。しかし彼はこのように答えたそうです。

「わたしは修道士なので没収される財産もなく、苦行に慣れているので鞭打ちもこたえない。真の故郷は天国なのでどこに流されても大して変わらないし、死刑になればさっそく天国に行けるので、むしろ願うところである」。

これには総督も度肝を抜かれ、「彼の固い信仰はわたしの手に負えません」と皇帝に報告しました。

その後、彼は半アリオス主義とニカイア信条との和解に尽力します。彼の死後まもなく開かれたコンスタンティノポリス公会議(381年)の成功は彼によるところが大きいといわれます。

<特禱>

全能の神よ、あなたは主のしもべ、主教教会博士バジルの教えによって公会を照らして下さいました。どうか天の恵みをもって公会をますます豊かにし、忠実な証びとを起して下さい。その生活と教えに倣い、わたしたちがすべての人に救いの真理を宣べ伝えることができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン